


令和2年度 職員提案 提案数12件 採用数6件

提案名	提案内容	現状・問題点	効果
「あそぼうよ！青梅」フレーズの活用について	<p>標記のフレーズについて、OmeBlue（青梅ブルー）と並ぶ青梅市のキャッチフレーズとして、市のPRに活用する。</p> <p>具体的な活用案は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あそぼうよ！青梅」のロゴマークを、職員、市民、市内小・中学生等からコンテスト型式で募集し、決定する。 ・令和3年に行われる青梅市市制施行70周年記念式典関連の頒布物や掲示物等に「あそぼうよ！おうめ」のフレーズを印字する。 ・ステッカーを作成し、職員証（職員証のケース）等の職員が業務中に身につけるものに貼付する。（作成に係る費用については、今後最も安価な方法を研究していく。） ・各課で作成する頒布物や掲示物に印字する。（既に印刷済みのもの等にはステッカーを貼付する。） ・「あそぼうよ！青梅」ポロシャツの作成（青梅ブルーとコラボレーションし、胸部に青梅ブルーロゴをあしらい、背部や腕部に「あそぼうよ！青梅」のフレーズを入れた新ポロシャツを作成する。公費ではなく、私費での作成とする。） ・「あそぼうよ！青梅」ウインドブレーカー等の新グッズ作成（クールビズ期間は青梅ブルーポロシャツがあるため、ウォームビズ期間での着用を想定。作成に当たっては商工観光課にも情報提供していただきながら、市内業者を活用する。公費ではなく、私費での作成とする。） ・市ホームページからロゴマークのデータやテンプレートのダウンロードを可能とし、観光業等に携わる市民を初めとし、広く市民等に活用していただく。 	<p>浜中市長が先の所信表明および施政方針演説において述べられた標記のフレーズであるが、令和2年5月末日現在、フレーズ自体の露出が少ないと思われる。</p> <p>標記のフレーズについて、市長は、所信表明では「市民とまちづくりを進めていくうえで基本となる私の姿勢を端的に表現した言葉」とし、施政方針演説では「私は、この言葉の持つ力を最大限に活用することで、私の理想とする青梅の未来の姿、「あそび」を起点とした「ひと」や「施策」がつながり合い、つながり続け、飛躍していくまちの実現を果たすことができると考えております。」としてご発言されており、市長のまちづくりの想いを実現するためにも、職員および市民に対して「あそぼうよ！青梅」のフレーズをPRしていくことが必要である。</p>	<p>「あそぼうよ！青梅」ロゴマークについて、公募とし、広報おうめ、市ホームページ、公式ツイッター等のツールで広く募集案内等を行うことで、「あそぼうよ！青梅」のフレーズを、市民を初めとした多くの人々に周知できる。（広報おうめのみでも、新聞折込および個別配布の合計で、33,500世帯への周知が可能。）</p> <p>また、市制施行70周年記念式典関連の頒布物、掲示物にもロゴをあしらうことで、他自治体を初め、広く市外に対しても、「あそぼうよ！青梅」のフレーズをアピールできると考える。</p>
UDフォントの積極的な利用による「誰にとっても見やすく読みやすい情報発信」	<p>「誰にとっても見やすく読みやすい情報発信」を目的に、市民への通知や各種のイベントチラシ、ポスター、申請書等に対応可能な場合は、積極的に文字の書体を「UD（ユニバーサルデザイン）フォント」にする。</p> <p>例：「広報おうめ」、「社会教育課主催の小中学生向けイベントポスター」、「よつばの手紙」、「市民課住民票・戸籍謄本抄本の写し等交付請求・申出書」、「障害者福祉課の障害者福祉手当受給資格認定申請書、手当異動届出書、装具費支給申請書」など</p>	<p>【市民への情報発信の現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に広報おうめ、各種のイベントチラシ、ポスター、ホームページなどを活用して、各課がデザインやフォントを工夫して効果的な情報発信に努めている。 ・いずれも文字の情報発信が主体で、読みやすい工夫が課題となっている。 <p>【書体による読みやすさ向上の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の情報発信で主に使用される書体は、「明朝体」または「ゴシック体」が多い。 ・公文書や多くの申請書式も同様である。なお、公文規定に書体までは規定されていない。 ・これらの書体を、対応可能な場合「UD（ユニバーサルデザイン）フォント※1」にすることで読みやすさの向上が期待できる。 <p>【UD（ユニバーサルデザイン）フォントの有効性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「UDフォント」は「誰にとってもわかりやすい文字」のため、特に目の病気や加齢で文字が読みにくくなりがちの高齢者でも読みやすくなる。 ・日本人の約20人に1人と言われるディスレクシア※2にとっても読みやすいとされる。（資料2） ・他市（奈良県生駒市）では、2019年2月に小学生116人を対象とした実験を実施。一般的な教科書体とUDフォントで36問ずつ解いてもらった結果、正答率は教科書体66%、UDフォント81%であり、読みやすさが正答率にも影響した。（資料3） <p>※1 UD（ユニバーサルデザイン）フォントとは デジタル文字フォントを製作するモリスワが考案したフォントで、誰にとっても文字の形がわかりやすいように工夫されている。（資料1）</p> <p>※2 ディスレクシアとは 発達障害の一種で、「字を読むことに困難がある障がい」のこと。「読字障がい」とも呼ばれ、文字がゆがむ、文字が反転して見えるなど、さまざまな症状がある。医学的な治療は確立されておらず、映画監督のステイブン・スピルバーグ氏も自身がディスレクシアであると公表している。見た目では分からないため認知されにくい。（資料4および資料5）</p>	<p>「UDフォント」は高齢者やディスレクシア対応だけでなく、誰にとっても読みやすい文字のため、障がいの有無に関わらず市民サービス向上に繋がる。</p> <p>「UDフォント」はWindows10に標準装備されているため、費用をかけることなく対応できる。</p> <p>近隣市町村で積極的な活用をPRしている自治体はなく、「UDフォント」を積極的に活用することで、「福祉が充実したまち（総合長期計画・第6章）」、「福祉のまちづくりの推進（障害者計画）」の実現に向けた取組の一つとして、青梅市が社会的配慮をしていることを市民に伝えることができる。</p> <p>※効果を実感していただくため、本用紙を「UDフォント10.5P」で作成した。</p>
ボートレース多摩川における、市内中高生の試乗会・職業説明会の開催	<p>近年、ボートレースは振興会等のイメージ戦略が奏功し、「ギャンブル」だけではなく「スポーツ」「エンターテイメント」としての側面もクローズアップされてきた。</p> <p>この流れを背景に、施行者である青梅市としての特性を生かして、市内中高生に対してボートレースの魅力を試乗会・職業説明会を開催し、レーサーを職業の一つとして認識してもらおう。</p> <p>また、ひいては青梅市が施行者であるという認知・理解を広く醸成し、将来的なファンの獲得も目的とする。</p>	<p>ボートレース多摩川は近年、ボートレース会の最高峰レースであるSGや、PGIレースを例年誘致するなど実績を重ね、青梅市への財政寄与も大きい。</p> <p>一方で、青梅市内において、年長者にはボートレースはギャンブルであると認識されていることからアピールが難しく、若年層にはそもそも開催場所が府中市であることも影響し、施行者であるとの認知度が高いとは言えない状況である。</p>	<p>仮に試乗会・職業説明会を通じて青梅市出身のレーサーが誕生したときは、「スポーツ」「エンターテイメント」面から、出身レーサーの応援を市を挙げて行うことができ、市民全体に対してボートレースを強くアピールすることができる。</p> <p>また、具体的に出身レーサーの誕生に至らないとしても、若年層やその親世代においてもボートレースの認知・理解が進めば、長期的にファンとなる層の掘り起こしにも繋がり、財政への寄与が期待できる。</p>

令和2年度 職員提案 提案数12件 採用数6件

提案名	提案内容	現状・問題点	効果
青梅エールマラソンの開催	<p>青梅エールマラソンを開催し、ランナーに目標の提供をおこない、青梅市内の企業、店舗を応援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間は1ヶ月程度とする。 ・開催地は、全国とする。 ・エントリー枠は、一般エントリー、青梅市応援エントリー、ふるさと納税エントリーとする。 ・参加費は、一般エントリーを1,000円程度、青梅市応援エントリーを5,000円程度、ふるさと納税エントリー（青梅市民エントリー不可）を10,000円程度とする。 ・参加賞としてシリコンバンド（2021年に開催するならば、「2021青梅エールマラソン」などの印字）を配付する。市内で協賛店を募り、シリコンバンドを提示した方に割引などのサービスを受けられるようする。 <p>青梅市応援エントリーには、青梅市内企業の商品（ホットマントオル、澤乃井日本酒など）を提供する。</p> <p>ふるさと納税エントリーには、青梅市内企業の商品（ホットマントオル、澤乃井日本酒など）をセットにしたものを返礼品として提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種目は、10km、30kmの部とする。 <p>内容は、密を防ぐために、開催日、日時、コースを限定せず、全国どこでも、好きな時間で好きな場所をランニングアプリなどを使用してランニングやウォーキングを楽しんでいただく。そして、計測した距離、タイムなどを入力するフォーマットを用意し、希望者にはデジタル記録証を発行する。</p> <p>シリコンバンド作成費用＝500個発注で1個あたり120円程度。 送料＝120円（一般的なシリコンバンドの重量が約6g、幅が約1.2cmのため、定型外郵便（規格内）で送付することになる。なお、観光パンフレット等を同梱する場合、シリコンバンドとの合計重量が50g以内、封筒サイズが長辺34cm以内、短辺25cm以内、厚さ3cm以内であれば、同じ送料にて発送可能である） エントリー費の一部を延期となった第55回青梅マラソン大会の運営費や青梅市の新型コロナウイルス対策事業費に充てさせていただく。</p>	<p>新型コロナウイルス（以下、コロナ）の影響により、記念大会となる第55回記念青梅マラソン大会が延期となった。</p> <p>5月の緊急事態宣言期間中では、多くの人が健康のためにランニングやウォーキングを行っていた。</p> <p>これをきっかけに、緊急事態宣言解除後も継続してランニングやウォーキングを行う人も多く見受けられ、第55回記念青梅マラソンへの参加者増加が予想できた。しかし、開催が延期となり、目標がなくなってしまったことにより、これから寒くなるタイミングでランニングやウォーキングを止めてしまう人が増え、運動不足に陥ってしまう。</p> <p>毎年、青梅マラソン大会を目標に練習をしてきた方々の目標がなくなってしまったため、練習意欲の低下による運動不足が懸念される。</p> <p>コロナの影響により、青梅市内企業の業績悪化、店舗への来客が減少している。</p>	<p>初めて青梅マラソンに参加しようと思った人に、寒い時期でも健康維持のためにランニングやウォーキングをしていただくために、青梅エールマラソンを日々の運動の目標としていただく。</p> <p>全国のマラソン大会が軒並中止となる中で、このような企画を開催することで、青梅マラソンを目標としていたランナーの運動不足解消だけでなく、全国のランナーに目標を提供することができ、青梅市が全国に知れ渡ることで、コロナ終息のあかつきには、青梅市を訪れる人の増加が見込まれる。</p> <p>シリコンバンド提示により店舗ごとのサービスが受けられれば、協賛店舗への来客増加が見込まれる。</p> <p>市内企業商品を提供すれば、企業の業績回復につながる。</p>
整頓された掲示場作り	<p>本庁舎西側ロータリー前の掲示場のパネルに告示文書を貼り出す位置を示し、高さや間隔を揃えることで、告示文書の掲示をしやすくするとともに、見やすく整頓された空間にする。</p>  <p>【改善案】 位置を示す印はパネルと同系色でなるべく目立たないものにする。 通常時と文書が多い時期の印をそれぞれ決め、通常時は文書が重ならない程度の間隔で、文書が多い際には、重なってしまうが、同間隔に掲示することができる印をつけておく。</p>	<p>掲示場に決められた位置等の表示がないため、掲示されている文書の高さ、間隔が一定でなく見にくく、雑然とした印象を与えている。</p> <p>また、告示が多く掲示されている際には、掲示する場所を確保するのに苦勞する。</p>	<p>空いているスペースが一目でわかり、掲示がしやすくなる。</p> <p>また、高さ、間隔をそろえることで現在の雑然とした掲示場の印象を改善することができる。</p>
青梅市の韓国語（ハングル）表記について	<p>現在、青梅市では「青梅」の韓国語（ハングル）表記をHPでは「오메」、広報おうめ（広報おうめの上部に青梅市HPは韓国語でも見ることができるとしている案内文）では「오우메」としている。</p> <p>英語表記については青梅市公文規程で定めているが、韓国語表記については、定めがないようである。（※1）</p> <p>案内文等を作成する際、「青梅市では～」という文言を使うことが多いが、表記を統一できるよう基準があるといいと思われる。</p> <p>（※1） 秘書係、広報係、情報公開文書係、観光係、オリンピック・パラリンピック担当主査へ確認</p>	<p>ある課から韓国語版の印刷物を作成するにあたり、原稿のチェックを依頼されたが、青梅市の表記に定めがなかったため、HPと広報おうめを参考にしたところ、表記がそれぞれ異なっていた。</p> <p>どちらの表記であっても間違いではないが、発行物により表記が異なるのは、誤解が生じる恐れがあることや、今後、オリンピック等により外国語での発信が多くなると想定される状況では表記を統一することによるメリットがあるのではないか。</p> <p>私的な意見としては、読み仮名を振る等、場合によって表記を使い分ける必要はあると思うが、青梅市という市町村名を明記する場合にはおいては、表記を統一すべきと考える。</p> <p>また、表記の統一にあたっては、韓国の国立国語院では外来語のルールを設けており、長母音については、分けて表記をしない(오메)となっていることも踏まえるべきであることを付け加えておく。</p>	<p>「青梅市」という自治体自体をブランドとするにあたっては、情報発信者として「市としての表記の統一、基準がある」方が有益であるとともに、運用する際においてもスムーズに対応できる。</p>